

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2018年												2019年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~1日	9月 ~8日	9月 ~15日	9月 ~22日	9月 ~29日	10月 ~6日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	56	46	78	65	87	128	102	107	34	35	26	31	30 (31)	20
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	85	81	77	69	51	59	51	37	9	27	14	20	15	10
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	5	3	11	6	3	11	5	12	3	7	3	1	3 (4)	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	10	9	12	13	14	24	11	17	3	3	4	2	5 (6)	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	22	16	22	14	11	12	18	12	3	5	5	3	3	2
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	1	0	0
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	1	0	0	3	1	2	0	0	7	0	0 (1)	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	3	2	1	0	0	0	0	0	1
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	23	23	11	11	2	5	0	1	0	1	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* 前回のその他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和元年第40週(9月30日~10月6日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7	2		1	1		2	1
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2					2		
四類	5	E型肝炎	1					1		
		日本脳炎	1					1		
		レジオネラ症	1					1		
		デング熱	1	1						
		日本紅斑熱	1							1
五類全数	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2						2	
		急性脳炎	1					1		
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1							1
		梅毒	1							1
		百日咳	7		4			3		

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
北部…三次市、庄原市

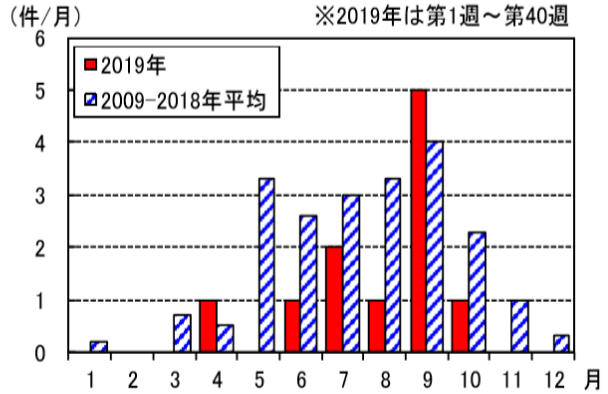
● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1. 腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告があり、今年の累計は11件となりました。
 腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して少ない菌量でも感染します。主な症状は、腹痛、水様性下痢、血便で、溶血性尿毒症症候群(HUS)などの重篤な合併症を起こすこともあります。
 例年10月頃までは報告数が多くなっていますので、肉等の食品の十分な加熱、食材・調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行など、感染予防対策を徹底しましょう。

【参考】腸管出血性大腸菌Q&A(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
インフル	インフルエンザ	2	0.05	0.19		小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.77	
小児科	咽頭結膜熱	8	0.33	0.26		眼科	RSウイルス感染症	64	2.67	1.33	⇒
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	1.46	1.91	⇒		急性出血性結膜炎	1	0.13	0.05	
	感染性胃腸炎	87	3.63	3.81	⇒		流行性角結膜炎	8	1.00	0.98	
	水痘	1	0.04	0.35		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	44	1.83	1.78	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	伝染性紅斑	9	0.38	0.17			マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.09	
	突発性発しん	4	0.17	0.39			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	13	0.54	0.37	↓		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減 ↑ (前週と比較しておおむね1:2以上の増減)

増減 ↗ (前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減)

微増減 ↘ (前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減)

横ばい ⇄ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	11	女性(10歳代)・O111、女性(20歳代)・O157・推定感染地域: 国外
4	E型肝炎	1	2	男性(60歳代)
4	日本脳炎	1	1	男性(70歳代)・市外
4	レジオネラ症	1	22	男性(50歳代)
5	急性脳炎	1	14	女性(10歳未満)
5	百日咳	3	72	男性(10歳未満)、男性(10歳代)、女性(60歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	丘疹 口内炎	4	女	2019/07/31	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA16型
その他の消化器疾患	腹痛	3	男	2019/08/20	糞便	アデノウイルス31型
その他の疾患	発熱(38.0) 汎血球減少	6	男	2019/08/28	咽頭拭い液	B型インフルエンザウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載